

教科書に記述された保健衛生

－戦前の高等女学校家事教科書の場合－

菅 修一

花園大学文学部図書館司書資格課程

発表者は市民が学校教育の中で、いつ伝染病予防について学んでいたか教科書の内容を調べている。

戦後の小学校検定教科書においては、長く社会科において伝染病予防が取り上げられていた。このことについては「医学史研究」第 103/104 号（2023.3）にて「小学校社会科教科書の伝染病（感染症）関係教材」として報告した。なお、戦後の中学校検定教科書にあつては保健体育において取り上げられていた。

戦前の小学校教科書にあつては修身において、昭和 9 年度から学年進行により使用された第四期国定修身教科書『尋常小学修身書』の巻五において「第六 衛生」という教材に伝染病関係の記述があるもののわずかな記述に留まる。その後、昭和 17 年以降学年進行により使用された第五期国定修身教科書『初等科修身』において該教材は消滅していた。

一方、初等教育の学校ではなく、中等教育学校の教科書を調べたところ、昭和 19 年 2 月に刊行された高等女学校様の『中等家事』の二において、「五 季節と衛生」という伝染病に関する教材が掲載されていた。

本発表においては、本教材の紹介、遡った年代の家事教科書での伝染病の取り扱いを紹介できればと考えている。また、なぜ高等女学校なのか、衛生に関する事項は女性の役割とされていたのか、可能であれば検討したい。